

たまずさ

広報紙 50 号 2022年10月1日

「TAMA市民塾」発行

〒183-0056 府中市寿町1-5-1

府中駅北第2庁舎6階

多摩交流センター内

TEL/ FAX 042-335-0111

塾長就任のご挨拶



2020年4月に塾長に就任しました宮本です。今回は、「就任のご挨拶」とともに、今後の生涯学習のあり方について簡単に所見を述べさせていただきます。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、やむを得ず講座を中止しました関係で「たまずさ」の発行も中断し、ご挨拶が遅くなりました。ご容赦ください。

私は、これまでは大学でアジアの社会・経済について研究してまいりました(北海道大学28年、台湾・国立台中科技大学7年、亜細亜大学5年、2020年3月定年退職)。大学在職中から生涯学習には関心をもっていましたので、大学の公開講座や大学外での各種の市民講座・講演会等には積極的に参加していましたが、このたびのように生涯学習の団体に本格的に関わるのは初めてのこととなります。ですから生涯学習の活動はほとんど素人です。これから大学在職中の教育経験も活かしながら、生涯学習のあり方・存在意義などについて考えるとともに、TAMA市民塾の受講生や多摩市民の皆さんのご要望に応えられるよう、微力ながら努めるつもりです。どうぞ宜しくお願いいたします。

TAMA市民塾・塾長 宮本 謙介

塾長就任にあたって「TAMA市民塾規程」を改めて学習しました。その第1条(目的)には、「…市民の人材を活用して参加型・対話型の体験学習講座を行い、…市民主導の生涯学習を確立すること」が掲げられています。また当塾の今日的な存在意義については、これまで「たまずさ」をはじめとする塾の刊行物で歴代の塾長や理事が繰り返し述べておられます。私なりに簡単にまとめますと、急速に進む少子高齢化、単身世帯の増加などによって地域社会の人間関係が希薄化し様々な社会問題を引き起こしていること、コミュニティ(共同体)としての地域社会は崩壊の危機にあり、地域社会再生の一助として生涯学習による「知縁コミュニティ」づくりが有効であること、などが指摘されています。いずれも極めて重要な指摘であり、このような理念に基づく活動は今後も是非堅持していきたいものです。

更にこれからは、ポスト・コロナ時代の地域社会の生涯学習のあり方についても考えていく必要があるように思われます。昭和・平成時代に急速に進んだ人口の大都市集中と経済のグローバル化は、新型感染症の世界的大爆発を引き起こし、深刻な被害を生み出しています。コロナ以後の時代は、地方分散型の社会生活基盤の整備や産業振興、経済成長優先から福祉・医療重視の政策への転換が求められます。こうした社会変化に対応して、我々は常に新しい知識・技術を獲得することが必要となります。「知縁コミュニティ」を一層活性化させる生涯学習の存在意義も高まります。これから皆さんとともに、新しい時代の生涯学習のあり方について模索していきたいと考えています。

「たまずさ」50号

TAMA市民塾 八束眞司

TAMA市民塾広報誌「たまずさ」は本号で50号の発行となります。本来、50号は2020年4月発行予定で準備しておりましたが、コロナの影響での講座中止に伴い発行を延期したため、約2.5年遅れの発行となりました。

1997年(平成9年)3月10日仮称「TAMA市民塾だより」で創刊され、26名の紙名応募、選定の結果、1997年8月30日発行の2号より「たまずさ」という紙名で発行されています。2号に紙名の由来が掲載されていますので、一部を引用紹介します

『“たまずさ”は、古代、手紙の意で使われていた“たま・あずさ(玉梓、玉章)”がつまった語です。“たま(玉)”は美称です。(昔、多摩川も玉川と記され、川に美称をつけてよばれた名だといわれています。それとも多摩の横山を流れる川から来ているのかな。)

“あずさ(梓)”は、ノウゼンカズラ科の高木で、その枝に手紙を結びつけて使者が運んだことから手紙、消息、ふみの意味に使われるようになりました。また、カラスウリの種子が結び文に似た形なので、“たまずさ”とよばれています。なお、梓は版木に使われたため、今でも、出版を上梓といっています。

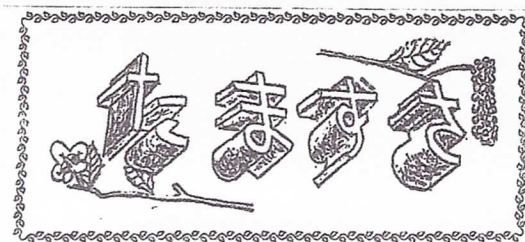
こうしたことから、多摩地域のすばらしさを“たま”で表し、人との交流や通信を結び文にたとえ、TAMA市民塾の出す広報紙を【たまずさ】と命名しています。』

3号(1998/3/15)から8号(2008/7/25)まで不定期発行、9号(2009/1/18)から12号(2010/7/31)までは年2回発行、13号(2011/1/31)以降年4回(1月4月7月10月)の発行を続け、50号の発行です。(現在の発行部数：約500部/回)

記事内容は、塾長の巻頭文、講師・塾生による寄稿文、市民塾の報告記事等で主に四面構成、31号(2015/7/18)以降はカラーの写真・挿絵等も刷込み発行しております。

なお、「たまずさ」既発行分(創刊～)の紙面については、交流センター受付にファイルを常備していますので、ご高覧ください。また、TAMA市民塾のH/Pでも41号(2018年1月)以降を掲載しております。

まだまだ、予断を許さない状況下ではありますが、市民塾広報誌として充実をはかるため、引き続きより一層、講師・塾生等関係者の皆様のご協力・ご指導・ご愛読をお願いいたします。



TAMA市民塾交流紙
第2号
平成9年8月30日発行
(新紙名記念号)

編集兼発行人
持丸 暁

TAMA市民塾は、ご存知の方も多いと思いますが、基本的にボランティアの自主的活動によって運営されています。塾は、運営方針を決める理事会、講座を維持する講師陣、それと塾を成り立たせる塾生で構成されています。理事会は講師陣が講座をやりやすいように、塾生が講座を楽しめるように三者間の意思の疎通に努めています。

その具体的情報交換の場が三者の交流会です。塾生は数が多いので各講座から選出された幹事さんが出席しています。

本号では最近の交流会で、出席した理事、講師、塾生の間で交わされた意見について、理事者に纏めて頂きました(2ページ以下)。

私達の塾がどうなっているか、どこを向いているかなど是非みんなで理解し、私達の塾を楽しいものにするためにお読み頂きたいと思います。

◆決断を秘し、戦術に巧み成り(ルイス・フロイス)

初めてTAMA市民塾の講座を担当させていただいたのが、平成28年10月からの「平家物語」、次いで平成30年10月からの「元禄赤穂事件」、そして令和2年10月から「戦国の動乱①」を担当させていただくところで年が明け、思いもかけず世界を震撼させたコロナ禍。このために皆さまご存じの通り、実に5シーズンにわたり講座が中断されていました。

今般久方ぶりにTAMA市民塾の講座再開のお知らせは、実は私の初めての講座を受講して下さった受講生の方々からも、押しなべて講座再開を歓迎する声、待ち遠しかったとの思い溢れるばかりの心情が伝わる連絡を頂戴しました。再開は少し前から情報をいただき、私にもビックニュースで早速お世話になっていた市民塾に講師の応募をした次第です。

今回は風雲児とも称された天下人信長の足跡を、第一級の歴史史料に沿ってご紹介してゆきます。中世の破壊者・改革者などの従来の信長の評価は大きく見直され、信長は「平和と秩序を維持すべき将軍を支える存在として天下^{せいひつ}静謐を大義名分に掲げて登場した。室町幕府の継承者」とも評価されています。また、天下人の概念は信長・秀吉・家康の三人で、「天下を支配する人・天下を實力でとった人」が通説でしたが、東京大学の金子拓准教授は、「将軍という官職に依拠せず、天下静謐維持を担った武家権力者」と定義して、信長・秀吉の二人を天下人としています。このように現在は従来の歴史の通説が見直されつつあります。

当時イエズス会から日本に派遣されていた宣教師ルイス・フロイスは、彼の著書「ルイス・フロイス日本史」等で信長について、**決断を秘し、戦術に巧みなり**と書き残していますが、信長が一躍有名になった桶狭間合戦は、通説では信長による雨中の迂回奇襲攻撃とされていましたが、実はそれは江戸期以降の創作物によるものなのです。実際は主従六騎雑兵二百とともに清須城を出撃し、雲霞のごとき今川軍に「**此時二千に足らざる御人数の由申候**」と、寡兵ながら堂々たる正面攻撃をかけ、僅か一撃で今川前軍を撃破して義元本陣に迫ったのが桶狭間の信長です。通説の奇襲攻撃などは実はどこにも存在しません。まさに堂々たる正面攻撃が桶狭間なのです。

また戦国史上あまりにも有名な長篠合戦も、歴史学の定説では武田勝頼が長篠城奪回のために甲斐を出撃したとされていますが、果たしてそれは事実なのでしょうか。現存する勝頼書状の精査により、現在では勝頼の出撃は全く別の理由であったことが指摘されています。併せて信長による武田軍の騎馬隊を迎撃するための鉄炮の三段撃ちによる新戦術などは、後世の軍記物語と映画・テレビ・小説の類の世界で、現在では否定されています。根拠に乏しいいわゆる「歴史の通説」に惑わされず、信頼度高い史料に遺された信長の実像・合戦史の真実を紹介します。どうぞ皆様も目の曇りを取り払ってください。(1200字)

TAMA 市民塾ホームページ開設

2021年4月TAMA市民塾のホームページを開設しました。[TAMA市民塾]で検索いただくとホームページ(H/P)に入れます。tama-shimin-juku.com

「活動情報」「講師募集」「塾生募集」「理事会」「知縁の広場」「お問い合わせ」等、タイムリーな情報満載です。ぜひ一度ホームページをのぞいてみてご活用ください。

お待ちしております。

東京都多摩地区の生涯学習センター

T A M A 市民塾

ボランティアが創る知縁コミュニティ

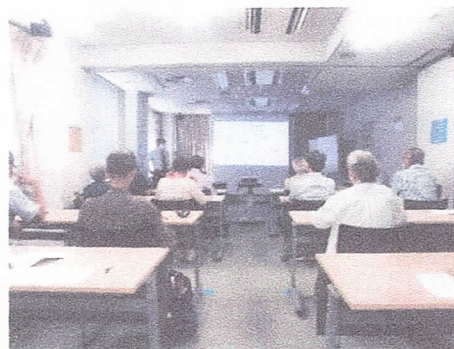
自主クラブ「日本語サロン」から寄付をいただきました(プリンター購入)

「日本語サロン」は梅林講師の死去に伴い解散30,000円をTAMA市民塾に寄付されました。そのご厚意をいただき、市民塾のプリンターを新しく購入(2022.5.14)させていただきました。大切に使用させていただきます。ありがとうございました。



日曜講座開催

第119回日曜講座を2022年6月19日(日)午後2~4時、多摩交流センター第二会議室で開催しました。コロナの影響で2019年7月21日以来、約3年ぶりの開催となりました。事前申込の12名が参加され、宮本塾長による『そうだったのか、アジアからみた世界の歴史』の講義で、今のアジアについて見識を深められました。関心の深い参加者が多く、熱気のある講座となりました。



10月開講講座の抽選会

2022年10月開講講座の塾生募集の結果、応募者が定員を超えた8講座の抽選会を7月16日10時半から講師立会いの下実施しました。

